

FUND  
REPORT

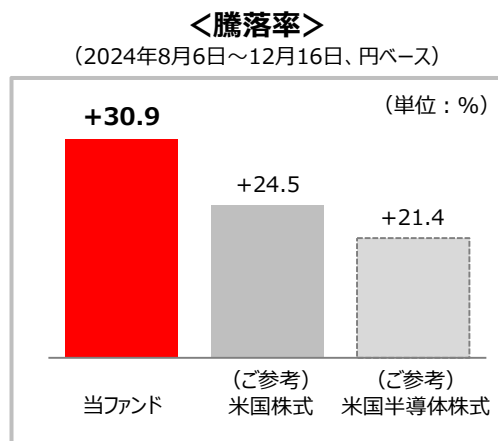
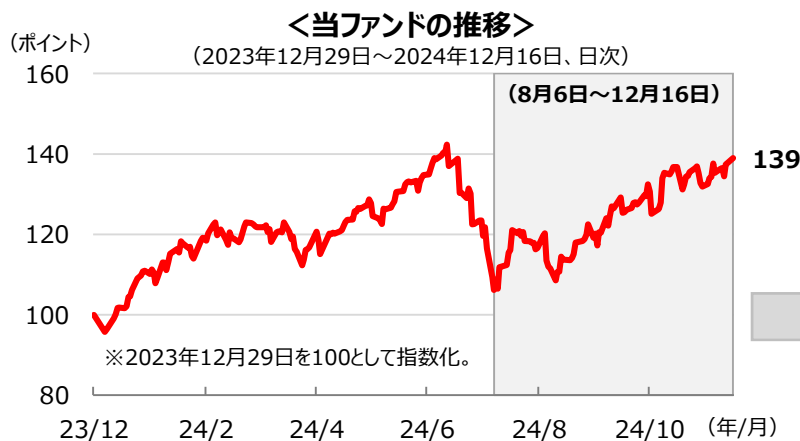
## 運用の振返りと今後の運用方針

## U Sテクノロジー・イノベーターズ・ファンド

平素より「U Sテクノロジー・イノベーターズ・ファンド」(以下、当ファンド)をご愛顧賜り厚く御礼申し上げます。以下、当ファンドの運用を実質的に担当するティー・ロウ・プライス・アソシエイツ・インク(以下、ティー・ロウ・プライス)からの情報を基に、運用の振返りおよび今後の運用方針等についてご報告いたします。

## 2024年初来のパフォーマンスについて

- 当ファンドの2024年12月16日の税引前分配金再投資基準価額は、2024年初来で**+39.0%上昇しました**。年初から年央にかけては、AI(人工知能)関連での恩恵が大きい半導体・半導体製造装置関連銘柄の株価上昇がパフォーマンスをけん引しました。
- 8月初旬での株式市場のリスクオフの動きを受け、当ファンドのパフォーマンスは短期的に悪化しました。しかし、**リスクオフ後の同パフォーマンスは+30.9%となり、米国株式(+24.5%)や米国半導体株式(+21.4%)を上回りました**(2024年12月16日現在)。詳細は次ページ以降でご説明します。



(注1) 当ファンドは税引前分配金再投資基準価額(1万口当たり、信託報酬控除後)。税引前分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したものと仮定して計算しており、実際の基準価額とは異なります。騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。

(注2) 米国株式はS&P500種指数、米国半導体株式はフィラデルフィア半導体株指数、いずれも配当込み、当ファンドの参考指数およびベンチマークではありません。

(注3) 当ファンドの基準価額算出時の外貨建て資産の円換算時には、基準価額算出日前日(休日の場合はその直近の最終取引日)の株価と、基準価額算出日の為替レートを使用しています。そのため、上記の米国株式、米国半導体株式の円ベースについてはこの計算方法に沿って、基準価額算出日前日の指数値(配当込み)と、基準価額算出日の為替レートから円換算値を算出しています。

(出所) ティー・ロウ・プライス、Bloomberg

※上記は過去の実績であり、当ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

※ファンド購入時には、購入時手数料がかかる場合があります。また、換金時にも費用・税金などがかかる場合があります。くわしくは9ページをご覧ください。

## 運用の振返り



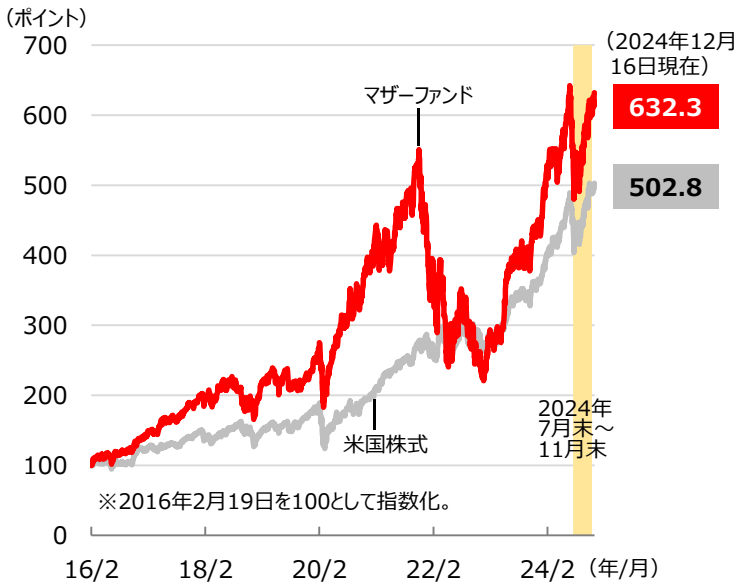
ティール・ロウ・プライスの  
ドミニク・リゾ氏

当ファンドの実質的な  
主運用担当者

- マザーファンドの足元のパフォーマンス（2024年8月6日～12月16日）には、今後のAI関連サービスの拡大で成長が期待されるソフトウェア・サービス関連銘柄の組入れを増やしたことや半導体・半導体製造装置関連銘柄の一部を利益確定したことなどがプラスに寄与しました。
- AIの活用が今後、本格的に企業等で拡大していくなかで、企業向けソフトウェアを手掛ける銘柄に着目し、保有株数を買い増してきました。過去4か月間（2024年7月末～11月末）では、主にサービスナウやハブスポットなどがパフォーマンスにプラス寄与しました。
- 半導体・半導体製造装置関連の組入銘柄では、AI向け半導体の最大手であるエヌビディアの一部を売却し、利益確定を行いました。引き続き、同社のAI向け半導体での先行性および成長力に着目しています。
- 米国大統領選挙においてトランプ氏が11月に勝利して以降、次期政権の政策等の恩恵が期待される組入銘柄（暗号資産用プラットフォームを提供するコインベース・グローバル、電気自動車のテスラ等）の株価が上昇したこともマザーファンドのパフォーマンスに寄与しました。

### ＜マザーファンドと米国株式の推移＞

（2016年2月19日（設定日）～2024年12月16日、日次、円ベース）



### ＜パフォーマンス寄与度 上位5銘柄＞

（2024年7月末～11月末）

| 順位 | 銘柄名          | 業種               | 寄与度 (%) |
|----|--------------|------------------|---------|
| 1  | エヌビディア       | 半導体・半導体製造装置      | +21.2   |
| 2  | サービスナウ       | ソフトウェア・サービス      | +9.6    |
| 3  | コインベース・グローバル | 金融サービス           | +9.4    |
| 4  | ハブスポット       | ソフトウェア・サービス      | +6.4    |
| 5  | アップル         | テクノロジー・ハードウェア・機器 | +5.7    |

- （注1）マザーファンドはUSテクノロジー・イノベーターズ・マザーファンドです。マザーファンドは基準価額（1万口当たり）ベース。マザーファンドには信託報酬はかかりません。米国株式はS&P500種指数、配当込み。同指数は、マザーファンドのベンチマークではありません。
- （注2）マザーファンドの基準価額算出時の外貨建て資産の円換算時には、基準価額算出日前日（休日の場合はその直近の最終取引日）の株価と、基準価額算出日の為替レートを使用しています。そのため、上記の米国株式の円ベースについてはこの計算方法に沿って、基準価額算出日前日の指数値と、基準価額算出日の為替レートから円換算値を算出しています。
- （注3）パフォーマンス寄与度のデータは、マザーファンドベース。業種はGICS（世界産業分類基準）による分類。
- （注4）寄与度は、各組入銘柄の円ベースのトータルリターンがマザーファンドの株式部分（為替影響考慮前）の基準価額上昇に寄与した割合（概算値）。
- （出所）ティール・ロウ・プライス、Bloomberg

※上記は、マザーファンドにおいて2024年7月末～11月末の期間内の組入銘柄およびその業種であり、当該銘柄を当資料作成時点で保有あるいは今後も保有するとは限りません。また、当該銘柄および業種を推奨するものではありません。

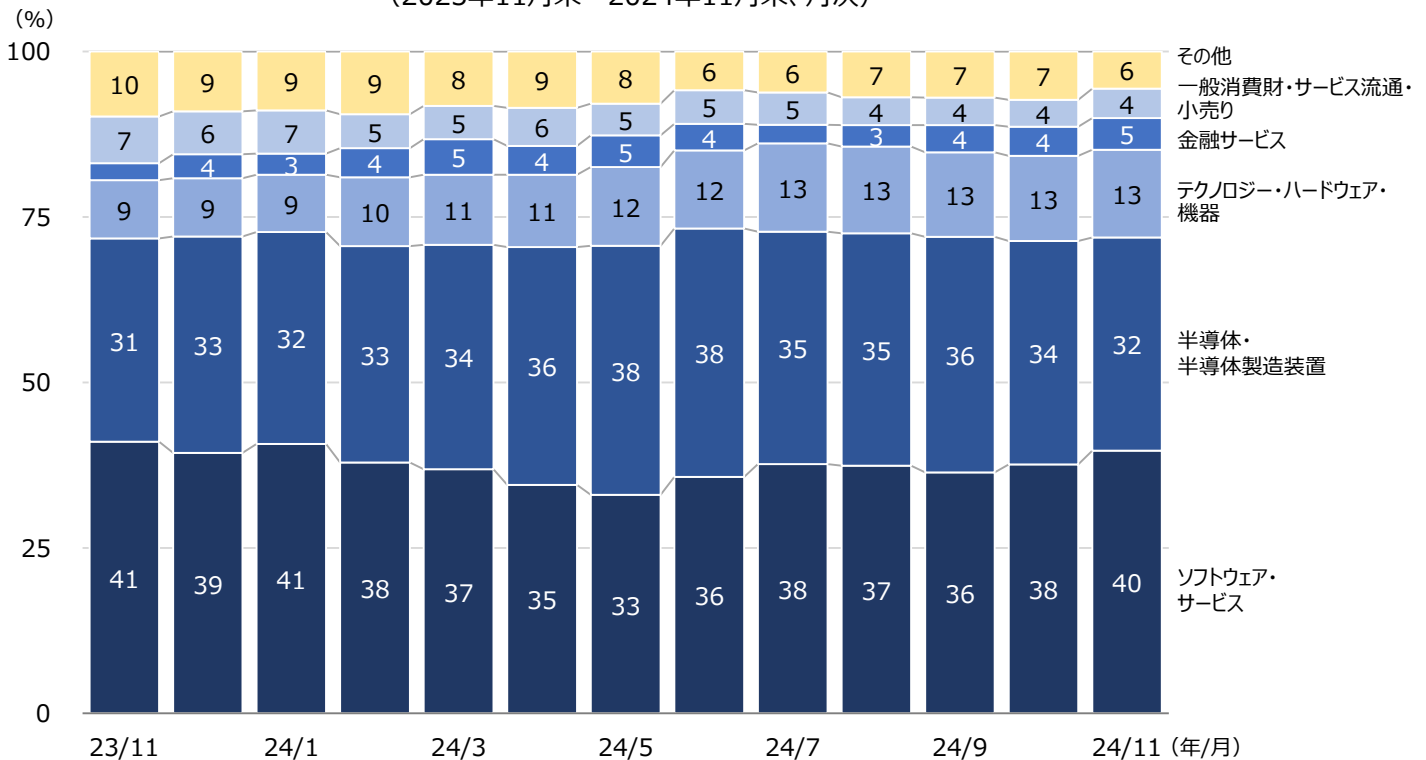
※上記は過去の実績および当資料作成時点の見通しであり、当ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。今後、予告なく変更される場合があります。

## 今後の運用方針

- 現状、AIの発展段階はインフラ構築の後期に入っていると考えられます。1990年代以降のインターネットの普及がそうであったように、**今後のAIインフラの構築が進展するに伴い、それをベースとした様々なサービスが開発され、拡大していくことが予想されます。未だAIの成長余地は大きいとみています。**
- AIによる技術革新の発展段階や個別要因などにより、AIの成長のけん引役の一部は交代（例えば、インフラ構築に関連する銘柄からサービス提供銘柄へ）しながらも、全体としての成長は持続するとみています。そのため、**最近では、最終消費者と企業間を結ぶAIプラットフォームを提供するブレイズ、モバイルアプリ向け等にAIを活用したマーケティングソリューションを提供するアップラビンなどを新たに組み入れています。**
- 米国のトランプ次期政権は、基本的に米国の経済および株式市場にプラスの影響を与えると考えます。**2025年初めの政権交代により、AIなどテクノロジーセクターの成長見通しに大きな影響はないと考えていますが、規制緩和や成長促進策は同セクターにも恩恵をもたらすことが予想されます。**
- 引き続き、業績の改善、魅力的なバリュエーション（投資尺度）、革新的な技術やサービスを基にした持続的成長力などの観点から、有望銘柄の発掘に注力し、機動的に銘柄を入れ替えていきます。

### ＜業種構成比率の推移＞

(2023年11月末～2024年11月末、月次)



(注1) 業種構成比率はマザーファンドベース。マザーファンドの純資産総額を100%として計算。

(注2) 業種構成比率は、同比率が3%以上の場合のみ数値を記載。

(注3) 業種はGICS（世界産業分類基準）による分類。その他には現金等を含みます。

(出所) ティー・ロウ・プライス

※個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

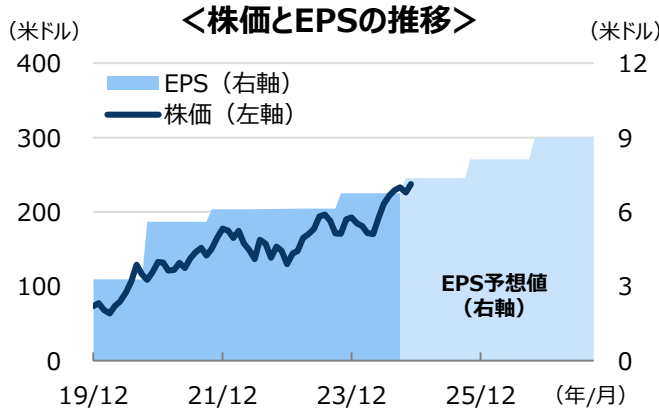
※上記は過去の実績および当資料作成時点の見通しならびに運用方針であり、当ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。今後、予告なく変更される場合があります。

## 組入銘柄の紹介

※銘柄名の右は組入順位、下は業種、右下は組入比率。

| アップル             | 第1位  |
|------------------|------|
| テクノロジー・ハードウェア・機器 | 8.9% |

世界最大級のスマートフォンメーカー。タブレット端末やPC等も展開。独自のAI機能を新製品を中心に搭載し始め、今後の需要拡大が期待されます。



| エヌビディア      | 第2位  |
|-------------|------|
| 半導体・半導体製造装置 | 8.8% |

AI向け画像処理半導体の世界最大手。AI用データセンターからの需要増加などにより、同社半導体へのさらなる需要増加が期待されます。



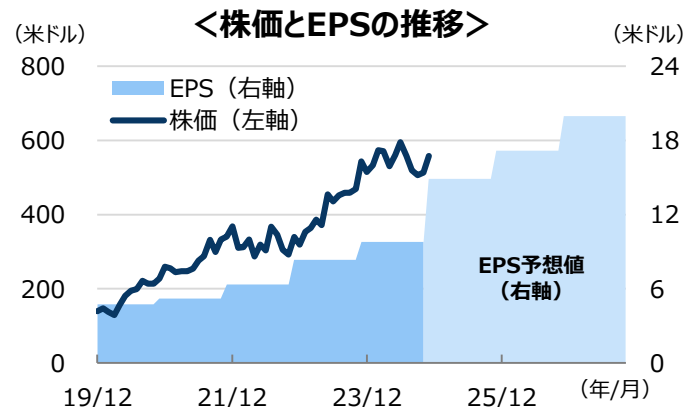
| マイクロソフト     | 第3位  |
|-------------|------|
| ソフトウェア・サービス | 8.6% |

世界的なソフトウェア、クラウドサービス関連企業。安定したユーザーがいる既存製品群にAI機能を組み込むことなどで、新たな成長機会を追求しています。



| シノプシス       | 第4位  |
|-------------|------|
| ソフトウェア・サービス | 6.0% |

半導体の設計ソフトウェア・サービスの提供企業。同社は半導体等の電子設計分野で寡占的な地位にあり、今後も成長が期待されます。



(注1) 組入順位、組入比率は2024年11月末現在。業種はGICS（世界産業分類基準）による分類。組入比率はマザーファンドの純資産総額を100%として算出。グラフのうち、株価は2019年12月末～2024年11月末、月次。EPSは1株当たり利益、EPS予想値は2024年12月16日現在のBloomberg予想。

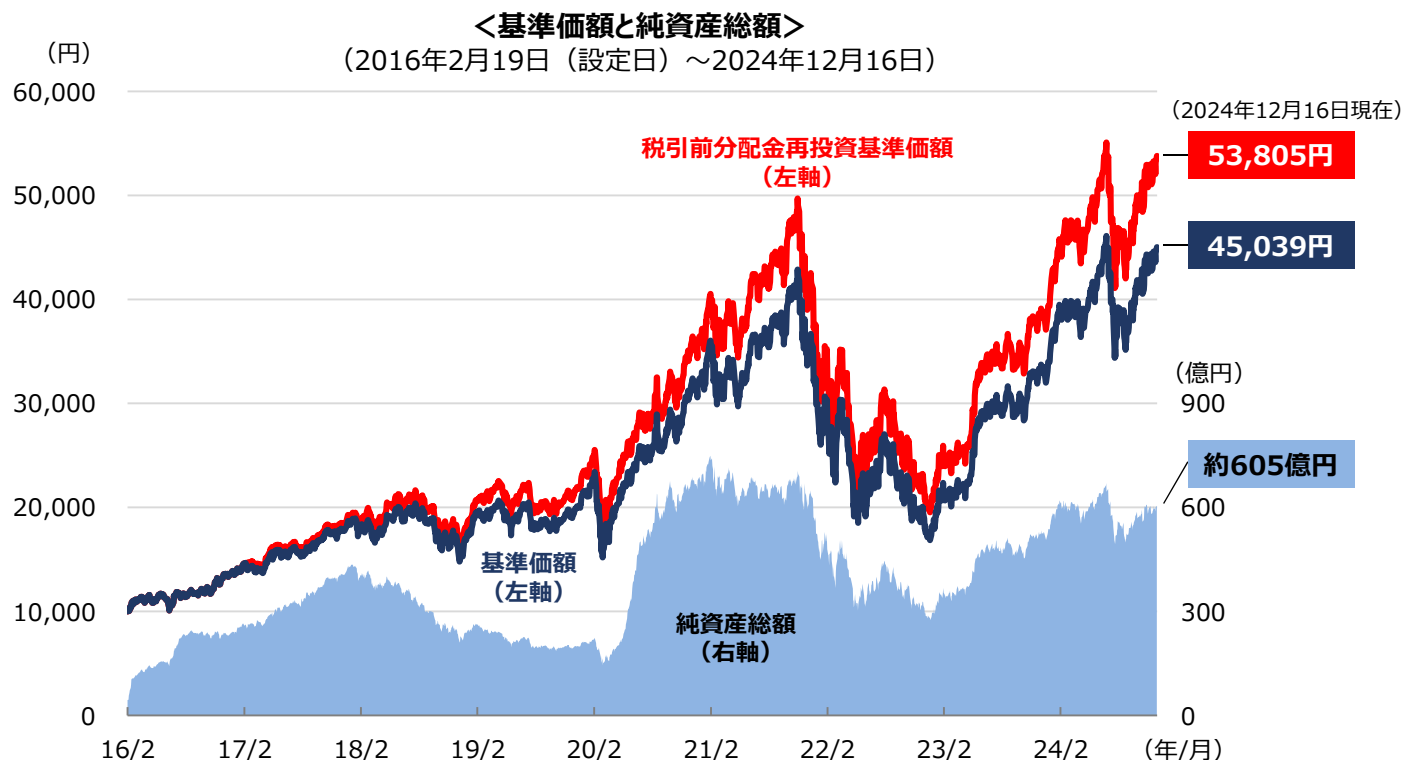
(注2) アップルのEPSは2020年9月期～2027年9月期、EPSの2025年9月期以降は予想値。エヌビディアのEPSは2020年1月期～2027年1月期、EPSの2025年1月期以降は予想値。マイクロソフトのEPSは2020年6月期～2027年6月期、EPSの2025年6月期以降は予想値。シノプシスのEPSは2020年10月期～2027年10月期、EPSの2025年10月期以降は予想値。

(出所) ティー・ロウ・プライス、Bloomberg

※上記はマザーファンドの2024年11月末時点の保有銘柄であり、当該銘柄を当資料作成時点で保有、あるいは今後も保有するとは限りません。また、当該銘柄を推奨するものではありません。

※上記は過去の実績および当資料作成時点の予想ならびに見通しであり、当ファンドの将来の投資成果および市場環境の変動等を示唆あるいは保証するものではありません。今後、予告なく変更される場合があります。

## 基準価額と純資産総額、分配実績の推移



### 〈分配実績〉

| 決算期   | 決算日        | 分配金 (円) |
|-------|------------|---------|
| 第1期   | 2017年2月27日 | 430     |
| 第2期   | 2018年2月26日 | 540     |
| 第3期   | 2019年2月26日 | 530     |
| 第4期   | 2020年2月26日 | 630     |
| 第5期   | 2021年2月26日 | 990     |
| 第6期   | 2022年2月28日 | 0       |
| 第7期   | 2023年2月27日 | 0       |
| 第8期   | 2024年2月26日 | 1,180   |
| 設定来累計 |            | 4,300   |

(注1) 基準価額および税引前分配金再投資基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後。分配金は1万口当たり、税引前。

(注2) 税引前分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したものと仮定して計算しており、実際の基準価額とは異なります。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果および分配を保証するものではありません。分配金額は委託会社が分配方針に基づき基準価額水準や市況動向等を勘案して決定します。ただし、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

※ファンド購入時には、購入時手数料がかかる場合があります。また、換金時にも費用・税金などがかかる場合があります。くわしくは9ページをご覧ください。

## ファンドの特色

※ 各ファンドの略称として、それぞれ以下のようになっています。

USテクノロジー・イノベーターズ・ファンド : (為替ヘッジなし)  
 USテクノロジー・イノベーターズ・ファンド (為替ヘッジあり) : (為替ヘッジあり)

1. USテクノロジー・イノベーターズ・マザーファンド（以下、「マザーファンド」といいます。）への投資を通じて、主として米国の上場株式の中から、情報技術の開発、進化、活用により高い成長が期待される企業の株式に投資を行います。
  - 主として情報技術関連事業を行う企業（以下、「情報技術関連企業」といいます。）の中から、革新的な技術・サービス等により高い成長が期待される企業の株式を厳選します。
  - ファミリーファンド方式により運用を行います。
  - \* 上場株式には、不動産投資信託（REIT）も含まれます。
  - \* 情報技術関連事業とは、ソフトウェア、ハードウェア、半導体、通信機器、情報処理サービス、通信サービス、電子商取引、メディア等に関連する事業にとどまらず、情報技術を活用した新しい事業も含まれます。

2. 情報技術関連企業への投資に強みをもつティール・ロウ・プライス・アソシエイツ・インクが実質的な運用を行います。
  - マザーファンドの運用にあたっては、ティール・ロウ・プライス・アソシエイツ・インクに運用の指図に関する権限の一部を委託します。

3. 対円での為替ヘッジの有無により、（為替ヘッジなし）と（為替ヘッジあり）の2つのファンドからご選択いただけます。
  - （為替ヘッジなし）  
実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。
  - （為替ヘッジあり）  
実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを活用し、為替変動リスクの低減を図ります。ただし、完全に為替変動リスクを回避することはできません。

※販売会社によってはいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

※ 資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

## 投資リスク

### 基準価額の変動要因

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 運用の結果として信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。
- 投資信託は預貯金と異なります。また、一定の投資成果を保証するものではありません。
- 当ファンドの主要なリスクは以下の通りです。

### ■ 株式市場リスク

【株価の下落は、基準価額の下落要因です】

内外の経済動向や株式市場での需給動向等の影響により株式相場が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、個々の株式の価格はその発行企業の事業活動や財務状況等によって変動し、株価が下落した場合はファンドの基準価額が下落する要因となります。

## 投資リスク

## ■ 信用リスク

【債務不履行の発生等は、基準価額の下落要因です】

ファンドが投資している有価証券や金融商品において債務不履行が発生あるいは懸念される場合、またはその発行体が経営不安や倒産等に陥った場合には、当該有価証券や金融商品の価格が下がったり、投資資金を回収できなくなったりすることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

## ■ 為替変動リスク

(為替ヘッジなし)

【円高は基準価額の下落要因です】

外貨建資産への投資は為替変動の影響を受けます。ファンドが保有する外貨建資産の価格が現地通貨ベースで上昇する場合であっても、当該現地通貨が対円で下落する(円高となる)場合、円ベースでの評価額が下落し、基準価額が下落することがあります。

(為替ヘッジあり)

【為替ヘッジにより、円高が基準価額に与える影響は限定的です】

外貨建資産への投資は為替変動の影響を受けますが、原則として対円で為替ヘッジを行うため、その影響は限定的と考えられます。ただし、完全に為替変動リスクを回避することはできません。なお、円金利がヘッジ対象通貨の金利よりも低い場合、その金利差相当分のヘッジコストがかかることにご留意ください。また、需給要因等によっては金利差相当分以上にヘッジコストがかかる場合があります。

## ■ カントリーリスク

【投資国の政治・経済等の不安定化は、基準価額の下落要因です】

海外に投資を行う場合には、投資先の国の政治・経済・社会状況の不安定化、取引規制や税制の変更等によって投資した資金の回収が困難になることや、その影響により投資する有価証券等の価格が大きく変動することがあり、基準価額が下落する要因となります。

## ■ 流動性リスク

【市場規模の縮小・取引量の低下により、不利な条件での取引を余儀なくされることは、基準価額の下落要因です】

有価証券等を大量に売買しなければならない場合、あるいは市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等に、十分な数量の売買ができなかったり、通常よりも不利な価格での取引を余儀なくされることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

## その他の留意点

〔分配金に関する留意事項〕

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
  - 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
  - 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。
- ファンドは、特定の業種・テーマに絞った銘柄選定を行いますので、株式市場全体の動きとファンドの基準価額の動きが大きく異なることがあります。また、市場環境、金利および経済・法制度・金融面の諸情勢が、特定の業種・テーマに対して著しい影響を及ぼすことがあります。当該業種・テーマに属する銘柄は、これらの情勢等に対して同様の反応を示すことがあります。
  - ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金申込みの受け付けが中止となる可能性、既に受け付けた換金申込みが取り消しとなる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性等があります。

## お申込みメモ

## 購入単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

## 購入価額

購入申込受付日の翌営業日の基準価額

## 購入代金

販売会社の定める期日までにお支払いください。

## 換金単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

## 換金価額

換金申込受付日の翌営業日の基準価額

## 換金代金

原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目からお支払いします。

## 信託期間

(為替ヘッジなし)

無期限 (2016年2月19日設定)

(為替ヘッジあり)

無期限 (2016年11月18日設定)

## 決算日

毎年2月26日 (休業日の場合は翌営業日)

## 収益分配

決算日に、分配方針に基づき分配を行います。委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

分配金受取りコース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、決算日から起算して5営業日目までにお支払いいたします。

分配金自動再投資コース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、無手数料で再投資いたします。

※販売会社によってはいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。

## 課税関係

- 課税上は株式投資信託として取り扱われます。
- 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に限りNISA (少額投資非課税制度) の適用対象となります。
- 当ファンドは、NISAの「成長投資枠 (特定非課税管理勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
- 配当控除および益金不算入制度の適用はありません。

## お申込不可日

以下のいずれかに当たる場合には、購入・換金のお申込みを受け付けません。

- ニューヨークの取引所の休業日
- ニューヨークの銀行の休業日

## スイッチング

販売会社によっては、(為替ヘッジなし) および (為替ヘッジあり) の間でスイッチングを取り扱う場合があります。また、販売会社によってはいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。



## ファンドの費用

### 投資者が直接的に負担する費用

- 購入時手数料  
購入価額に**3.30% (税抜き3.00%) を上限**として、販売会社毎に定める手数料率を乗じた額です。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 信託財産留保額  
ありません。

### 投資者が信託財産で間接的に負担する費用

- 運用管理費用（信託報酬）  
ファンドの純資産総額に**年1.903% (税抜き1.73%) を上限**とする率を乗じた額です。  
信託報酬率は純資産総額に応じて逓減します。詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。
- その他の費用・手数料  
以下のその他の費用・手数料について信託財産からご負担いただきます。
  - 監査法人等に支払われるファンドの監査費用
  - 有価証券の売買時に発生する売買委託手数料
  - 資産を外国で保管する場合の費用 等
 ※上記の費用等については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※ 上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

## 税金

### 分配時

所得税及び地方税 配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%

### 換金（解約）及び償還時

所得税及び地方税 譲渡所得として課税 換金（解約）時及び償還時の差益（譲渡益）に対して20.315%

- ※ 個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。法人の場合は上記とは異なります。
- ※ 外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。
- ※ 税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。
- ※ 少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」をご利用の場合  
少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」は、少額上場株式等に関する非課税制度であり、一定の額を上限として、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託等から生じる配当所得および譲渡所得が無期限で非課税となります。  
ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設し、税法上の要件を満たした公募株式投資信託等を購入するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

## 委託会社・その他の関係法人等

|        |  |
|--------|--|
| 委託会社   | <p>ファンドの運用の指図等を行います。</p> <p>三井住友DSアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号<br/>加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、<br/>一般社団法人第二種金融商品取引業協会</p> <p>ホームページ： <a href="https://www.smd-am.co.jp">https://www.smd-am.co.jp</a><br/>コールセンター： 0120-88-2976 [受付時間] 午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）</p> |
| 受託会社   | <p>ファンドの財産の保管および管理等を行います。</p> <p>株式会社りそな銀行</p>   |
| 販売会社   | <p>ファンドの募集の取扱い及び解約お申込の受付等を行います。</p>  |
| 投資顧問会社 | <p>ファンドの運用指図に関する権限の一部の委託を受け、投資信託財産の運用を行います。</p> <p>ティー・ロウ・プライス・アソシエイツ・インク</p>  |

## 販売会社

| 販売会社名         |          | 登録番号             | 日本証券業協会 | 一般社団法人<br>金融商品取引業協会 | 日本投資顧問業協会 | 一般社団法人<br>金融先物取引業協会 | 一般社団法人<br>投資信託協会 | 備考 |
|---------------|----------|------------------|---------|---------------------|-----------|---------------------|------------------|----|
| あかつき証券株式会社    | 金融商品取引業者 | 関東財務局長（金商）第67号   | ○       |                     | ○         | ○                   |                  | ※1 |
| SMB C日興証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長（金商）第2251号 | ○       | ○                   | ○         | ○                   |                  |    |
| 楽天証券株式会社      | 金融商品取引業者 | 関東財務局長（金商）第195号  | ○       | ○                   | ○         | ○                   |                  | ※2 |
| 株式会社三井住友銀行    | 登録金融機関   | 関東財務局長（登金）第54号   | ○       | ○                   |           | ○                   |                  | ※1 |

備考欄について

※1：「U Sテクノロジー・イノベーターズ・ファンド」のみのお取扱いとなります。※2：金融商品仲介業者経由のみでのお取扱いとなります。

## 当資料のご利用にあたっての注意事項

- 当資料は、三井住友DSアセットマネジメントが作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、将来に関し述べられた運用方針・市場見通しも変更されることがあります。当資料は三井住友DSアセットマネジメントが信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 投資信託は、値動きのある証券（外国証券には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本や利回りが保証されているものではありません。
- 投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。
- 当ファンドの取得のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書（交付目論見書）および契約締結前交付書面等の内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等は販売会社にご請求ください。また、当資料に投資信託説明書（交付目論見書）と異なる内容が存在した場合は、最新の投資信託説明書（交付目論見書）が優先します。

作成基準日：2024年12月16日